

UNI-PEX

取扱説明書

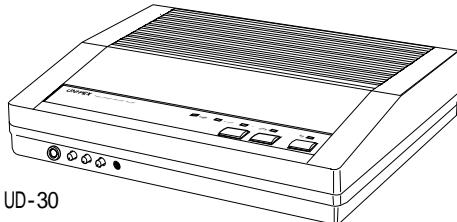
ページングアンプ

定格出力 30W

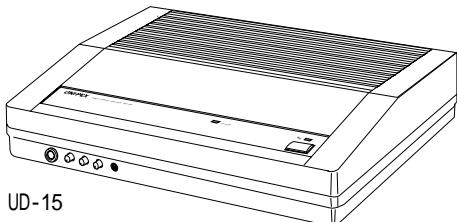
UD-30

定格出力 15W

UD-15



UD-30



UD-15

このたびは、ページングアンプをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

ご使用前に、必ずこの取扱説明書の「安全上のご注意」と取扱・工事方法に関する説明をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。この取扱説明書はお読みになりましたら大切に保管し、後日わからぬことがあれば再びご覧ください。

目次

安全に正しくお使いいただくために	1
安全上のご注意	2 ~ 3
各部の名称と説明(上面 / 前面)	4
オートマチックフェーダー回路について	4
各部の名称と説明(底面 / 後面)	5
操作のしかた	6 ~ 7
工事説明	
接続のしかた(接続例)	8
入出力端子台への接続について	9
スピーカーの接続について	10
ページングの接続について	11
非常用放送設備との接続について(UD-30のみ)	11
設置のしかた	12
ノイズ対策について	13
点検方法	13
定格	14
外観寸法図	14

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようにになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



記号は注意(危険・警告)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。



記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な注意内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。



記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

安全上のご注意〈必ずお守りください〉

ご使用の前に必ず、この取扱説明書の「安全上のご注意」と取扱・工事方法に関する説明をよくお読みの上、正しくお使いください。

お読みになったあとは、必ず保存してください。

⚠ 警告

異常が起きたときは、ただちに使用をやめる

煙が出ている、においや音がする、水や異物が入った、落として破損したなど、火災・感電の原因となります。ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。



分解／改造はしない

火災・感電の原因となります。修理や点検は、販売店などにご依頼ください。



異物を入れない

水や金属が内部に入ると、火災・感電の原因となります。ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。



通風孔をふさがない

通風孔をふさぐ、ものをのせたり通風を悪くすると内部に熱がこもり火災の原因となります。



電源コードを傷つけない

電源コードの上に重いものをのせたり、無理に曲げたり、ねじったり、引張ったりすると、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線）販売店などに交換をご依頼ください。



表示された電源電圧以外の電圧で使用しない

火災・感電の原因となります。



雷が鳴り出したら、スピーカー線や電源プラグには触れない

感電の原因となります。



⚠ 注意

湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所に置かない
火災・感電の原因となることがあります。



不安定な場所に置かない
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



電源コ - ドを熱器具に近づけない
コ - ドの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



電源を入れる前には音量を最小にする
突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。



お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く
感電の原因となることがあります。



工事は工事店に依頼する
工事には、技術と経験が必要です。火災・感電、けが、器物損壊の原因となります。
工事店にご相談ください。



濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となります。



電源プラグを抜くときは、電源コ - ドを引っ張らない
コ - ドが傷つき、火災、感電の原因となります。必ずプラグを持って抜いてください。



移動するときは、コード類を傷つけない
火災、感電の原因となることがあります。移動させる場合は、電源スイッチを切り、
必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コ - ドをはずしてからおこな
ってください。



この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない
特に子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となるこ
とがあります。



テレビ、オ - ディオ機器、ビデオ機器、スピ - カなどの機器を接続する場合は、各々
の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。又
接続が終わりましたら、必ず端子カバーを取り付けてください。感電の原因とな
ることがあります。



1年に一度くらいは内部の掃除を工事店などにご相談ください。内部にほこり
のたまつたまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨時の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用につ
いては工事店などにご相談ください。



各部の名称と説明(上面/前面)

スピーカー出力系統スイッチ(UD-30のみ)

放送されるスピーカー出力系統のスイッチを押してください。押し込まれている状態が「入」で、その出力系統の表示灯が点灯します。再び押しますと「切」に戻ります。

ペーディング表示灯

電話ペーディング放送時に緑色に点灯します。

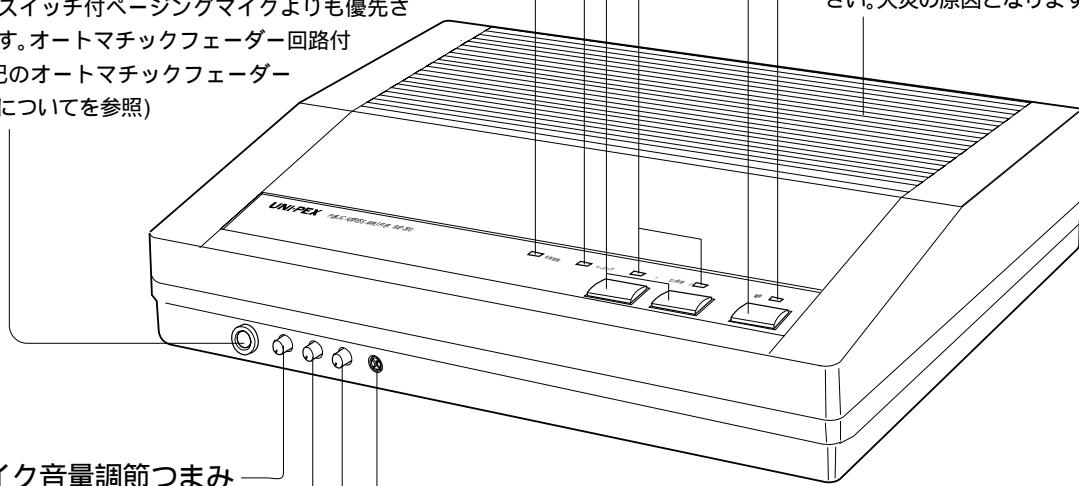
非常遮断表示灯(UD-30のみ)

非常遮断が働いたときに赤色に点灯します。

マイク入力ジャック

(-62dBV 600 不平衡)

ペーディングマイクなどを接続します。後面のリモートスイッチ付ペーディングマイクよりも優先されます。オートマチックフェーダー回路付(下記のオートマチックフェーダー回路についてを参照)



マイク音量調節つまみ

ライン音量調節つまみ

ペーディング音量調節つまみ

(P11のペーディングの接続についてを参照)

出力系統表示灯(UD-30のみ)

出力系統スイッチ1,2が押されているときに緑色に点灯します。

電源スイッチ

アンプの電源を「入」「切」するときに押します。

電源表示灯

アンプの電源が入ると赤色に点灯します。

放熱用通風孔

ご使用の際は通風孔をふさがないでください。火災の原因となります。

オートマチックフェーダー回路について

本機はオートマチックフェーダー回路付です。マイク放送時やペーディング放送時には、ライン入力に接続されたカセットデッキやCDプレーヤーの音量が自動的に減衰します。オートマチックフェーダー回路は次の場合に働きます。

- ・前面マイク入力ジャックに接続されたマイクの音声入力による場合
- ・後面リモートスイッチ付ペーディングマイク入力に接続されたマイクのトクスイッチを押した場合。
- ・ペーディング放送をするとき、ペーディング制御入力に制御信号が入力された場合。

ライン入力信号の減衰量の調節はミュート量調節つまみで調節することができます。右へ回すと、ライン放送の減衰量が大きくなり、左へ回すと小さくなります。

放送が終わるとライン放送の音量が自動的に元の音量に戻ります。

(図1/2参照)

図1

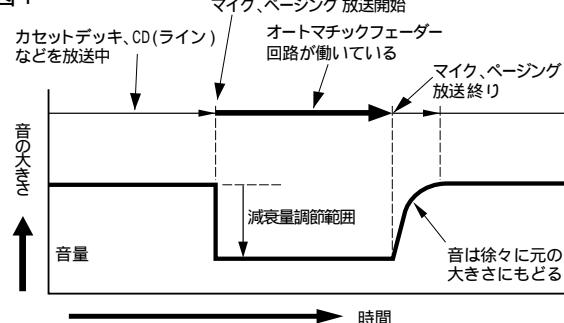
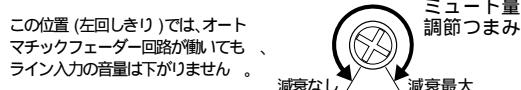


図2



各部の名称と説明(底面 / 後面)

非常遮断機能入切スイッチ(UD-30のみ)

本機に非常用放送設備の非常外部端子(24V非常時断)の制御線を接続されたときは、このスイッチを必ず「入」にしてください。また、非常用放送設備と接続しない場合に「入」になっていますと放送ができませんので、必ず「切」にしてください。

(P110の非常用放送設備との接続についてを参照)

入出力端子台

スピーカー・ページング入力・非常用放送設備などと接続します。(P9の入出力端子台への接続についてを参照)

端子カバー(壁掛金具兼用)

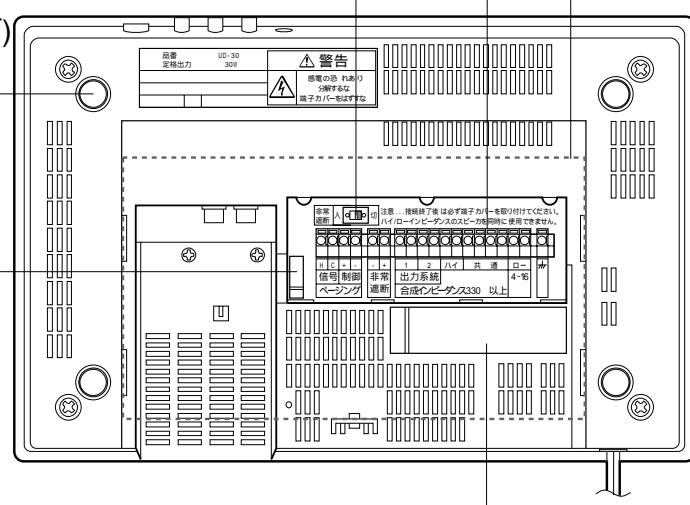
端子台の接続が終われば必ずこのカバーを取付けてください。

(底面)

ゴム足

入力・制御線用 ケーブルクランプ

(P9の入出力端子台への接続についてを参照)



(図はUD-30)

スピーカー線用ケーブルクランプ

(P9の入出力端子台への接続についてを参照)

放熱用通風孔

ご使用の際は通風孔をふさがないでください。火災の原因となります。

(後面)

電源コード

プラグをAC100Vコンセントに接続してください。

ライン入力端子

(-12dBV 10k 不平衡)

テープデッキやCDなどを接続してください。接続機器のL/Rチャンネルに関係なく接続してください。

リモートスイッチ付ページングマイク入力5P DINジャック

(-62dBV 600 不平衡)

リモートスイッチ付ページングマイク(5P DIN端子付)を接続します。マイクのトーケンスイッチを押すことにより、アンプの電源が「切」のときでも自動的にアンプの電源が入り、放送が可能になります。UD-30の場合はスピーカー出力系統スイッチが両方選択された状態となり出力系統表示灯1,2が点灯します。このジャックと前面マイク入力ジャックの両方にマイクを接続された場合は、前面のマイク入力ジャックが優先されます。

オートマチックフェーダー回路付(P4のオートマチックフェーダー回路についてを参照)

操作のしかた

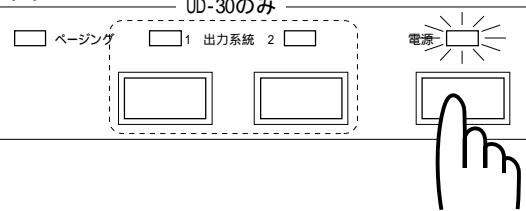
ご注意.. 電源コードやスピーカーコード、その他の接続コードなどが正しく接続されているか確認してください。
各音量調節つまみは反時計回り最小の位置に合わせておいてください。

マイク放送のしかた(前面マイク入力ジャックに接続されたページングマイクなどで放送する場合)

1.電源を入れる

電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が点灯していることを確認してください。

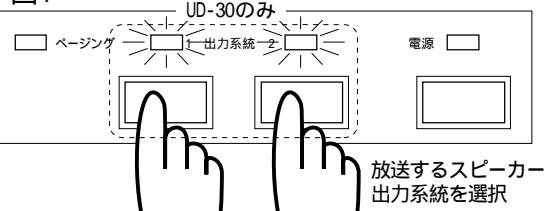
図3



2.放送するスピーカー出力系統を選択(UD-30のみ)

スピーカー出力系統スイッチを押して、放送する出力系統を選択してください。選択した出力系統表示灯が点灯していることを確認してください。(図4参照)

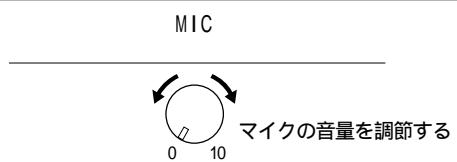
図4



3.マイク放送の音量を調節

マイク放送の音量をマイク音量調節つまみで調節してください。またマイクにマイクスイッチがある場合は、スイッチを「入」にしてください。(図5参照)

図5

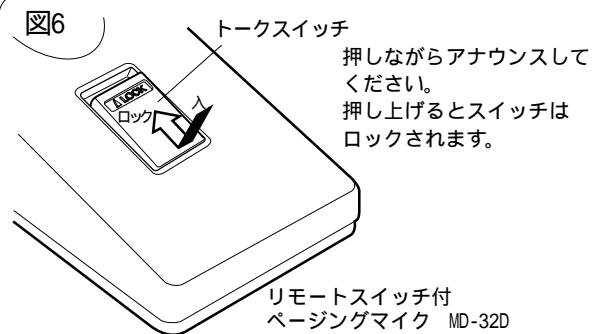


リモートスイッチ付ページングマイク(5P DINソケット付)での放送のしかた

1.マイクのトクスイッチを「入」にする

リモートスイッチ付ページングマイクのトクスイッチを押すか、もしくはロックします。(図6参照)

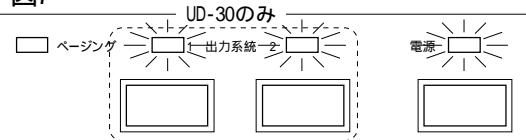
図6



2.自動的に本機の電源が入る

アンプの電源が「切」のときでも自動的にアンプの電源が入り、放送が可能となります。UD-30の場合は、このとき出力系統1、2が両方とも選択された状態となり、出力系統表示灯1、2が両方とも点灯します。(図7参照)

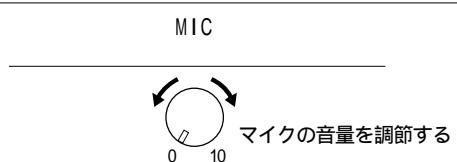
図7



3.マイク放送の音量を調節

マイク放送の音量をマイク音量調節つまみで調節してください。(図8参照)

図8

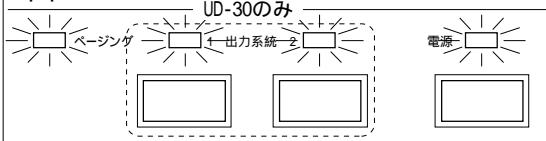


電話ペーディング放送のしかた

1.電話によるペーディング放送を開始

電話ペーディング制御入力に制御信号が入ると、アンプの電源スイッチが「切」のときでも自動的にアンプの電源が入り、放送が可能となります。UD-30の場合は、このとき出力系統表示灯1、2が両方とも選択された状態となり、出力系統表示灯1、2が両方とも点灯します。(図9参照)

図9

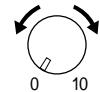


2.ペーディング放送の音量を調節

電話ペーディングの音量をペーディング音量つまみで調節してください。(図10参照)

図10

PAGING



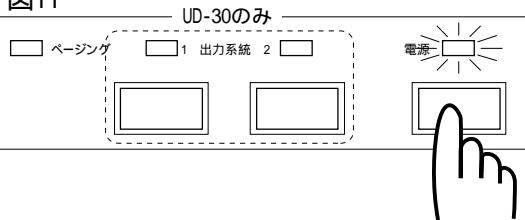
ペーディング放送の音量を
調節する

ライン入力に接続されたカセットデッキや CDプレーヤーなどから放送するとき

1.電源を入れる

電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が点灯していることを確認してください。(図11参照)

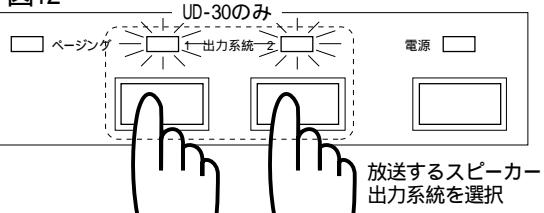
図11



2.放送するスピーカー出力系統を選択(UD-30のみ)

スピーカー出力系統スイッチを押して、放送する出力系統を選択してください。選択した出力系統表示灯が点灯していることを確認してください。(図12参照)

図12



3.ライン入力接続機器の演奏をスタートする

ライン入力に接続されたカセットデッキやCDプレーヤーなどの電源スイッチを入れ、演奏をスタートしてください。(図13参照)

図13

stop play pause



カセットデッキ、CDプレーヤー
などの操作ボタン

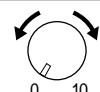
プレイボタンを押す

4.ライン放送の音量を調節

ライン放送の音量をライン音量調節つまみで調節してください。(図14参照)

図14

LINE



ラインの音量を調節する

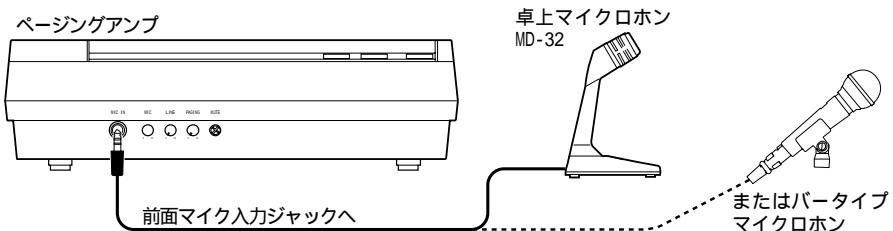
工事説明

本機の工事は、必ず販売店に依頼してください。また工事をするときは、必ず電源スイッチを「切」にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。

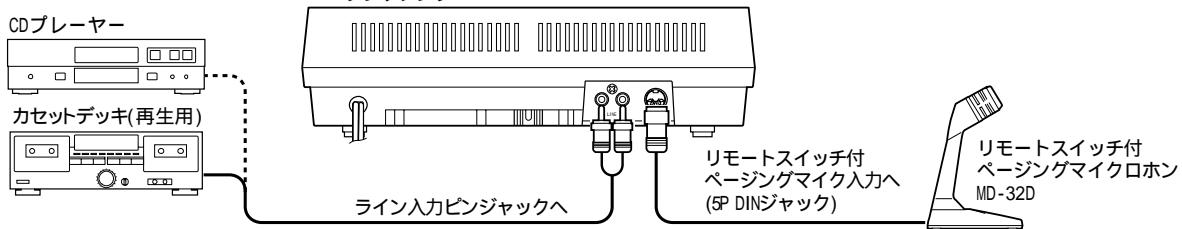
接続のしかた

接続例(UD-30/15共通)

(前面) 図15

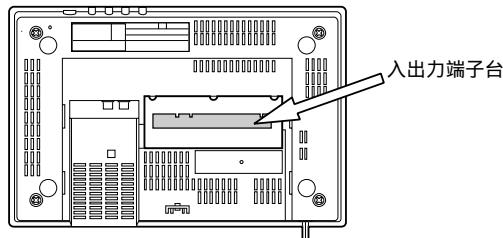


(後面) 図16

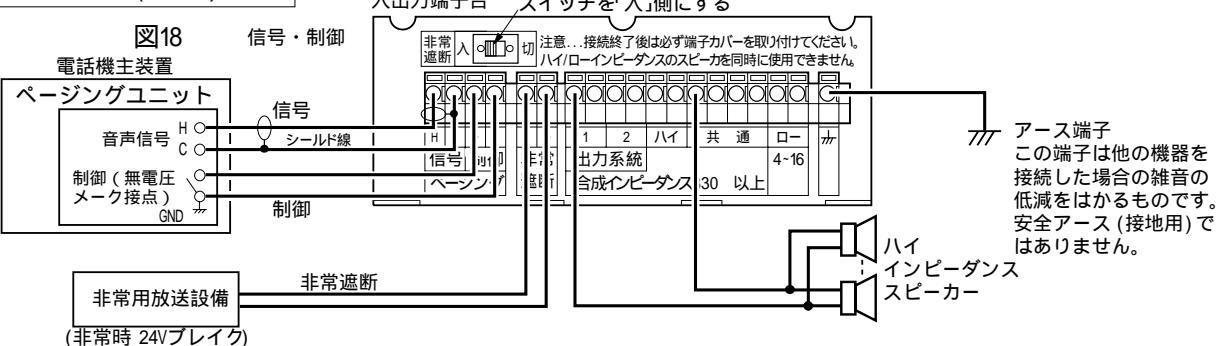


ご注意.. マイク放送は前面マイク入力か、リモートスイッチ付ページングマイク入力に接続されたマイクロホンのどちらかしかできません。両方のマイク入力にマイクロホンを接続された場合は、前面のマイク入力が優先します。

(底面) 図17

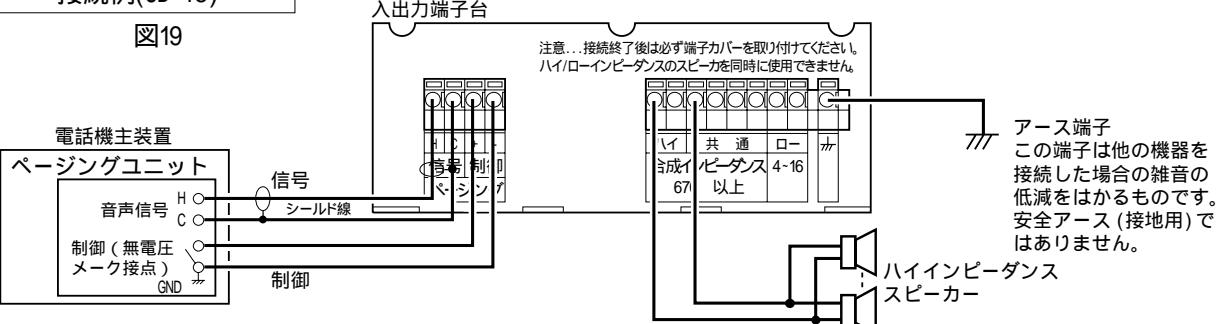


接続例(UD-30)



接続例(UD-15)

図19

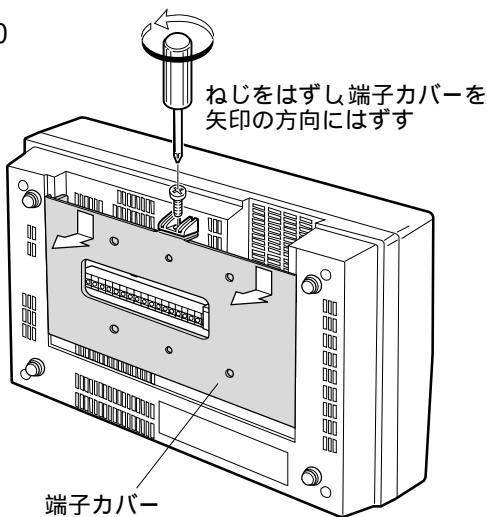


入出力端子台への接続について

1. 端子カバーを取りはずす

取付ねじをはずし、端子カバーを下向きにスライドさせ取りはずしてください。(図20参照)

図20

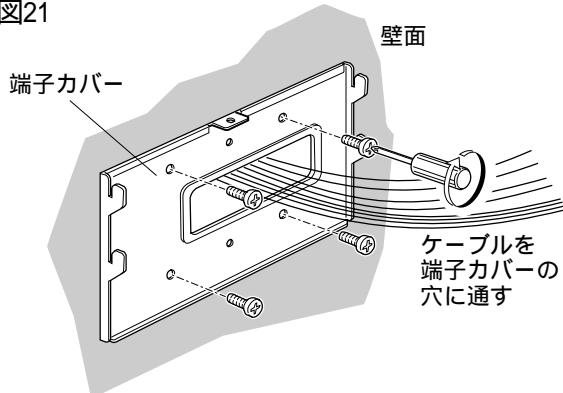


2. 端子カバーを壁面に取り付ける

(壁掛け設置の場合のみ)

壁掛け設置される場合は、先に端子カバーの穴にケーブルを通し、端子カバーを壁面に取り付けてください。(図21参照)

図21



3. ケーブルを端子台に接続する

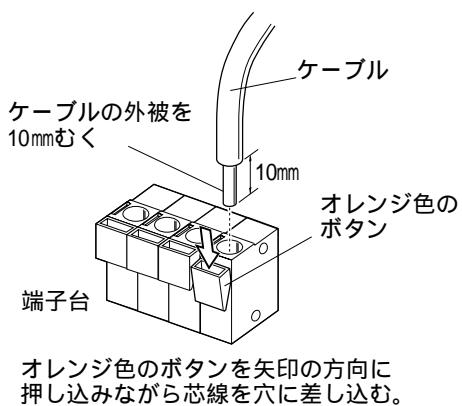
ケーブルの外被をむき(10mm)、端子台へ差し込みます。電線が単線の場合は、そのまま差し込んでください。より線の場合は、端子台のオレンジ色のボタンを押し下げながら差し込んでください。(図22参照)

また、ケーブルを抜くときは単線、より線ともオレンジ色のボタンを押し下げながら引き抜いてください。

使用可能電線

- ・ 単線 0.65 ~ 1.6mm² (AWG22 ~ AWG14)
- ・ より線 0.3 ~ 1.25mm² (素線径 0.18mm以上)
(AWG22 ~ AWG16)

図22



4. ケーブルをクランプする

(卓上、据置で設置の場合のみ)

卓上、据置で設置される場合は、ケーブルをクランプしてください。スピーカー線と入力・制御線は別々のクランプに通してください。(図23参照)

接続が終わりましたら必ず、端子カバーを取付けてください。(P12の設置のしかたの項をご覧ください。)

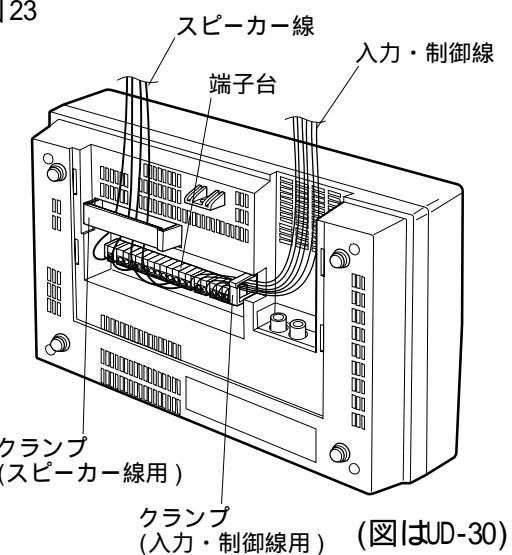


端子カバーをはずすときは、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。



ご使用中は、感電の恐れがありますので、端子カバーをはずさないでください。

図23



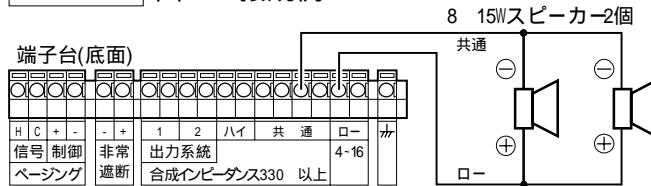
スピーカーの接続について

ローインピーダンススピーカーの接続

接続できるスピーカーは下表のとおりです。

アンプ品番(定格出力)	適合負荷インピーダンス	スピーカーの必要容量
UD-30(30W)	4 ~ 16	30W以上
UD-15(15W)		15W以上

UD-30 図24 接続例



UD-15 図25 接続例



特にご注意を.. ローインピーダンススピーカーとハイインピーダンススピーカーを同時に使用することはできません。
多数のスピーカーを接続するときは、全スピーカーの合成インピーダンスが 4 以下にならないようにしてください。
使用するスピーカーの定格入力は、スピーカー1個に加わる入力W数より大きいものを使用してください。

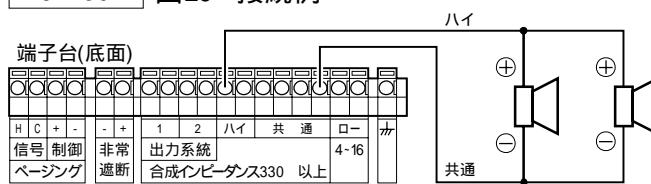
ハイインピーダンススピーカーの接続

接続できるスピーカーは下表のとおりです。

品番	適合負荷インピーダンス	スピーカーの必要容量
UD-30	330 以上	スピーカー(トランス付)の合計容量が30W以内
UD-15	670 以上	スピーカー(トランス付)の合計容量が15W以内

スピーカー出力系統スイッチを使用しない場合

UD-30 図26 接続例



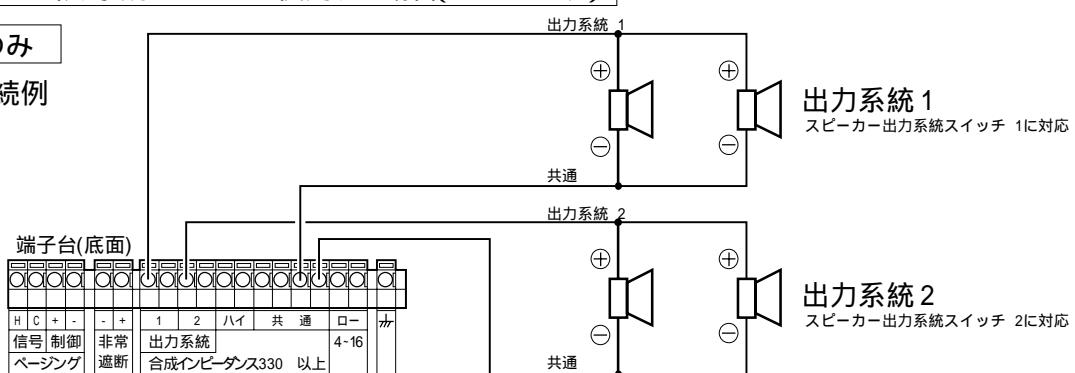
UD-15 図27 接続例



スピーカー出力系統スイッチを使用する場合(UD-30のみ)

UD-30のみ

図28 接続例



特にご注意を.. スピーカーの合成インピーダンスが、アンプの適合インピーダンスより小さくならないようにしてください。

スピーカーの合計W数はアンプの定格出力以下にしてください。

ハイインピーダンススピーカーとローインピーダンススピーカーを同時に使用することはできません。
感電に注意! 出力端子には、定格出力時に次に示す電圧がかかります。

UD-30: 約100V(出力330W)、UD-15: 約100V(出力670W)

接続が終わりましたら必ず、端子カバーを取り付けてください。(P12設置のしかたの項をご覧ください。)

ページングの接続について

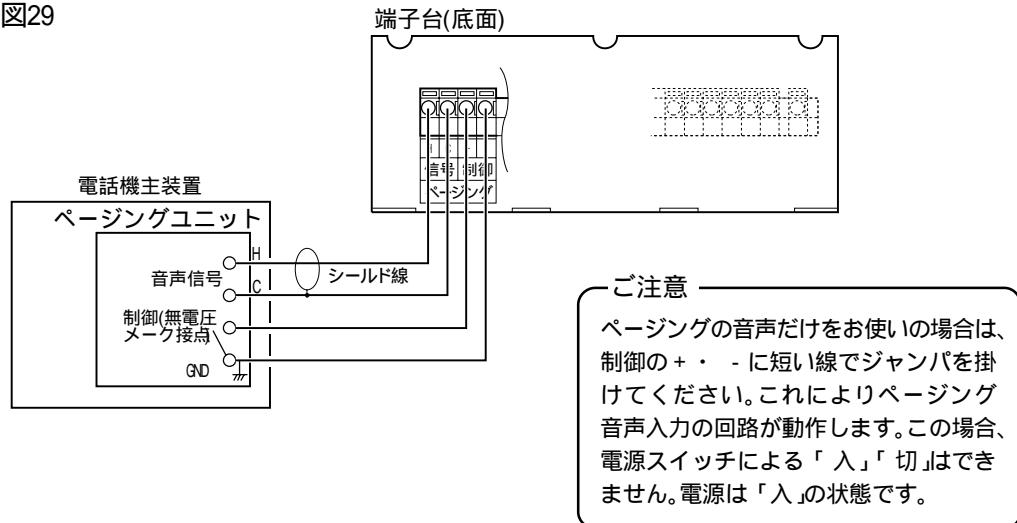
ページング制御は、無電圧メイク接点方式です。制御が働くとページング表示灯が点灯します。アンプの電源が「切」のときでも自動的にアンプの電源が入り、ページング放送が可能になります。UD-30の場合はスピーカー出力系統スイッチが両方選択され、出力系統表示灯1,2が点灯します。

音量調節は本機前面のページング音量調節つまみでおこなってください。

信号線と制御線を図29のように接続してください。

接続が終わりましたら必ず、端子カバーを取り付けてください。(P12の設置のしかたの項をご覧ください。)

図29



非常用放送設備との接続について (UD-30のみ)

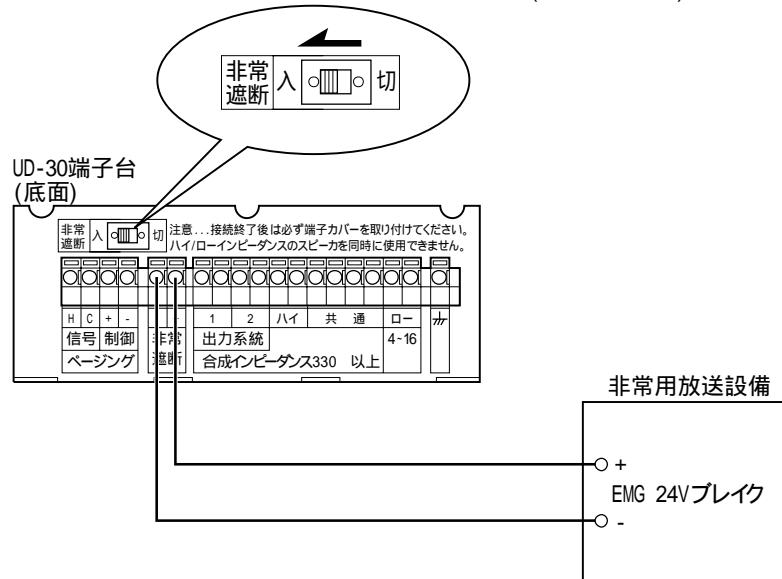
非常用放送設備の非常外部端子(+24V非常時断)の制御線を本機端子台の非常遮断に接続してください。このとき、必ず非常遮断機能入/切スイッチを「入」にしてください。(図30参照)

この制御線を接続しておくことにより、非常放送時に本機の非常遮断表示灯が点灯し、本機からの放送出力を遮断することができます。

接続が終わりましたら必ず、端子カバーを取り付けてください。(P12の設置のしかたの項をご覧ください。)

図30

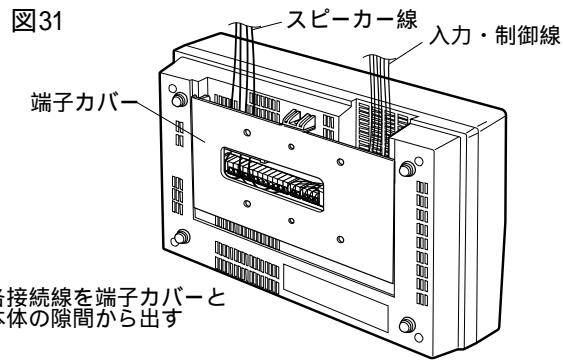
非常遮断機能入/切スイッチを「入」側にする(出荷時は「切」)



設置のしかた

卓上に設置する場合

P9の入出力端子台への接続についての項を参考にして各接続線を接続した後、電線を端子カバーと本体の隙間から出して、卓上に設置します。(図31参照)



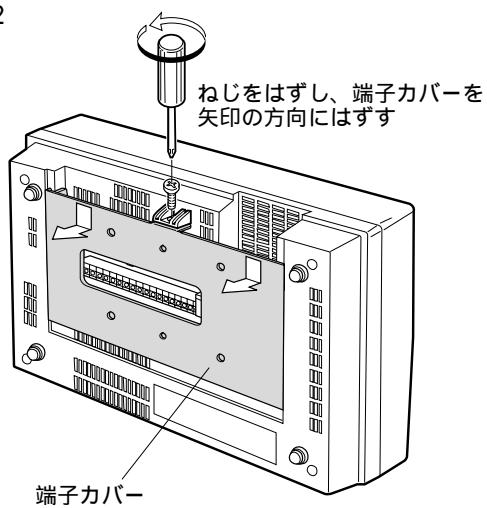
各接続線を端子カバーと
本体の隙間から出す

壁掛設置の場合

1. カバーを取りはずしてください。

取付ねじをはずし、端子カバーを下向きにスライドさせ取りはずしてください。(図32参照)

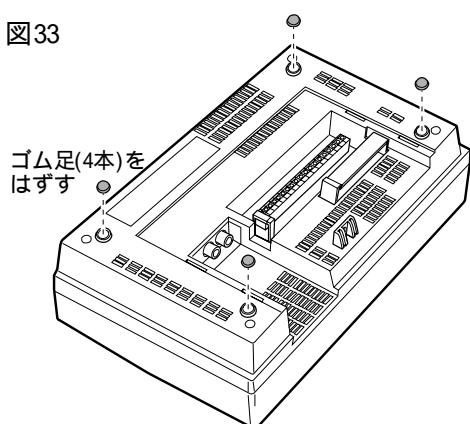
図32



2. 本体底面のゴム足(4個)をはずします。

(図33参照)

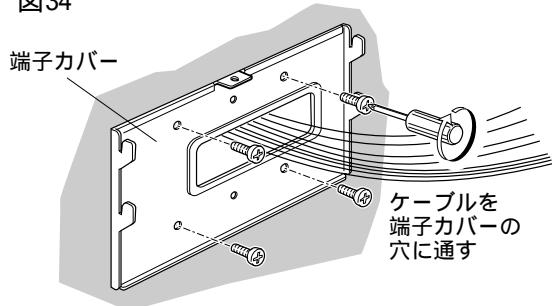
図33



3. 端子カバーを壁面に取り付ける

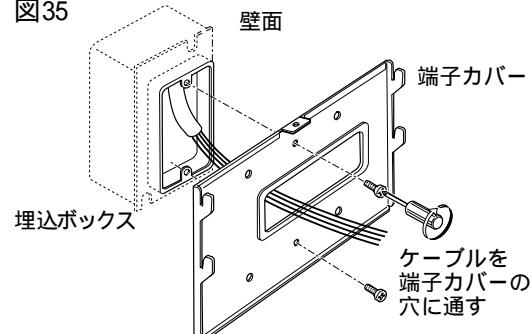
カバーの穴にケーブルを通してから、端子カバーを壁面に取り付けてください。(図34参照)

図34



電線管用埋込ボックスをご使用の場合は、端子カバーを埋込ボックスに取り付けてください。(図35参照)

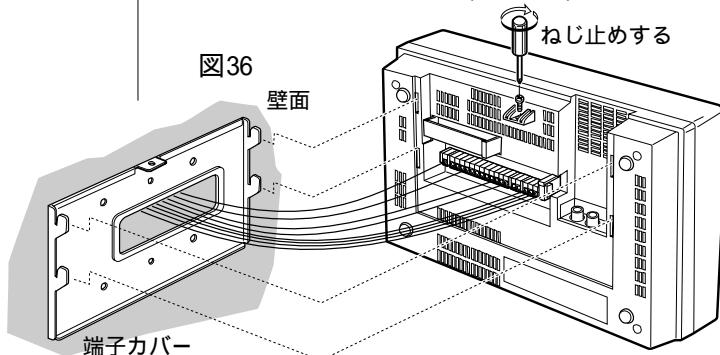
図35



4. 端子カバーに本体を掛ける

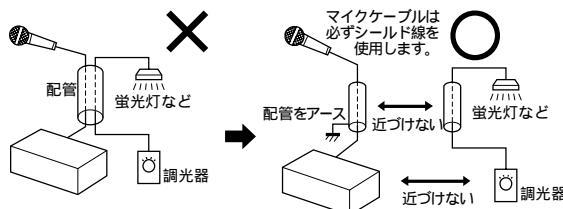
接続が終了しましたら、端子カバーに本体をひっかけ
てねじ止めしてください。(図36参照)

図36



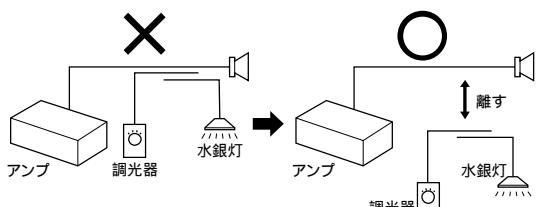
ノイズ対策について

外来ノイズの影響を受けないために、配線については次のような点にご注意ください。



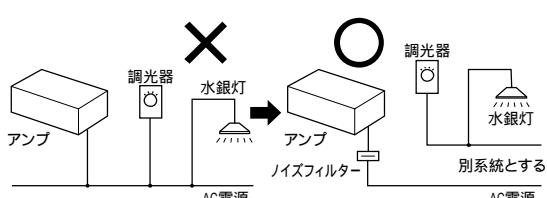
マイクケーブル等の入力線のノイズ対策

調光器系統、AC電源系統とは必ず別配管とし、離して布線してください。



スピーカー線のノイズ対策

スピーカー線は調光器、水銀灯などの系統線とは離して布線してください。



電源のとりかた

電源は調光器、水銀灯などの系統とは必ず別にしてください。それでも不十分な場合はアンプへのAC100V電源線にノイズフィルターを入れてください。

点検方法

ほんのちょっとしたことで正常に動作せず、故障かな？と思うことがあります。
次の要領で点検してみてください。

症 状	点 検 項 目	対 策
全く動作しない。	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源表示灯が点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
マイクの音声がでてこない。	マイクプラグは確実に差し込まれていますか。	確認してください。
	マイクは正常ですか。	他のマイクと交換してください。
	マイクの音量調節つまみの位置が0位置になってしまいませんか。	適当な音量にしてください。
スピーカーより音がない。	端子板に正しくスピーカー線が接続されていませんか。	P10のスピーカーの接続方法をごらんになって確認してください。
	スピーカー線がショートしていませんか。	確認してください。
音がわれる	音量が大きすぎませんか。	音量を調節してください。
雑音ができる	スピーカー線やマイクコードなどは他の線と一緒に布線していませんか。	上記のノイズ対策をごらんになってください。
外部接続機器の音がない。 または小さい。	接続機器及び本機の入力音量調節つまみが0位置になってしまいませんか。	適当な音量に調節してください。
	接続機器のレベルは合っていますか。	P4～5の各部の名称と説明の各入力ジャックの説明をごらんください。



上記の方法で点検されても正常に動作しないとき、または使用中に急に異常が発生したときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙などの異常が無いことを確認し、販売店などへご連絡ください。

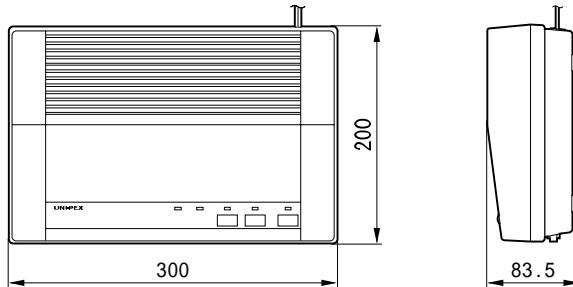
本機は絶対に分解しないでください。感電の恐れがあります。修理は、必ず販売店などにご依頼ください。

定格

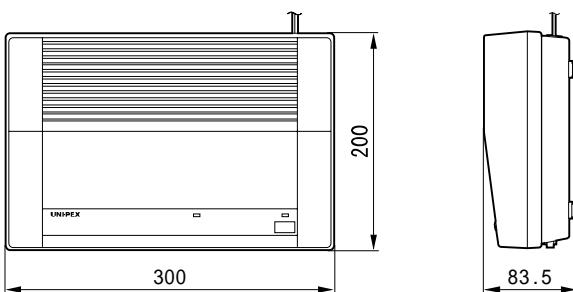
品番	UD-30	UD-15
使用電源	AC100V 50/60Hz	
定格消費電力	24W(電気用品安全法による測定方法に基づく)	14W(電気用品安全法による測定方法に基づく)
消費電流	AC 1.1A(定格出力時)	AC 0.6A(定格出力時)
定格出力	30W	15W
出力負荷	330 (ハイインピーダンスライン) 4 ~ 16	670 (ハイインピーダンスライン)
インピーダンス		
ひずみ率	1 %以下	
周波数特性	100Hz ~ 10kHz 偏差 ± 3dB (定格出力 - 10dB時)	
入力感度及びインピーダンス	マイク / リモートスイッチ付ページングマイク : - 62dBV 600 不平衡 音量調節器付 ライン : - 12dBV 10k 不平衡 音量調節器付 ページング : - 12dBV 10k 不平衡 音量調節器付	
信号対雑音比	60dB以上	
動作表示	電源表示灯 : LED (赤)、ページング : LED (緑) スピーカー出力系統 : LED (緑) × 2 [UD-30のみ]、非常遮断 : (赤) [UD-30のみ]	
付帯機能	ページング起動端子 (電源起動及び出力系統同時起動) リモートスイッチ付ページングマイク起動 (電源起動及び出力系統同時起動) マイク及びページング入力によりライン入力信号を減衰 (- 0dB ~ 40dB可変) 2系統スピーカ出力系統スイッチ付 [UD-30のみ] 非常遮断が可能 (非常時 DC24V断にてアンプ動作停止) [UD-30のみ] オートマチックフェーダ回路 (マイク入力やページング入力により、ライン入力の信号を減衰)	
使用温度範囲	- 10 ~ + 50	
外装	ケース (ABS樹脂) マンセル 10GY7.5/0.5 近似色 グレー	
外形寸法	幅300mm 高さ 83.5mm 奥行200mm	
質量	約2.2kg	約1.9kg
付属品	取扱説明書 (保証書兼用) 1	

外観寸法図 (単位mm)

UD-30



UD-15



製造元 日本電音株式会社
発売元 ユニペックス株式会社

RKTUD30-H0-2